

令和 6 年度 第 1 回 学校関係者評価委員会

日時：令和 6 年 11 月 28 日（木） 14:00～

場所：新館 8 階 8-1 会議室

企業等委員 出席者：野柳、川上、萩原、清行、安村、日根（敬称略）

学校 池尾、田中、大江、西村、木下、辻井、竹中、日開（敬称略）

令和 6 年 11 月 28 日

学校関係者評価報告書

履正社スポーツ専門学校北大阪校

学校関係者評価委員会

令和 5 年度の自己点検・自己評価報告書に基づき、各項目を確認して次の通り評価した。

1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか

本校は、建学の理念として「履正不畏」・「勤労愛好」・「報本反始」と三つの綱領を掲げ、校内においては、全教室に掲示、尚且つ学則・学生便覧に記載して教職員・講師・学生等に周知している。

学校外に対しては、本校ホームページ・学校案内書等に明記し、学校説明会・保護者説明会等においても説明し、その普及に努めている。本校が追求する目的・育成人材像は、スポーツと医療分野の専門学校として、さまざまなスポーツを経験・体得・熟知し、そして、それらを生かし高度な医療知識と技術を習得。尚且つ建学の理念を礎とし、相手を思いやる心と高度なコミュニケーション能力を兼ね備え時代変化への即応力を持ち、幅広い社会の要請に応じられる真に優秀なスポーツ業界人と医療人である。

（評価 C）

1-2 学校の特色はなにか

本校は、スポーツ系である文化・教養専門課程を有しており、また、1 年次はスポーツ学科に入学し、2 年次から併設校の鍼灸学科・柔道整復学科へ同時に在籍するメディカルアスリート専攻（理学療法学科は同時入学）を開設し、双方を履修できる体制を取っている。就職時においても、この融合と連携が有効に作用し、スポーツ系学生の病院・治療院への就職を実現させている。さらに就職システムの特色として、スポーツ系と医療系の相互内部進学体制、大学編入学支援体制、キャリア形成支援体制、そして生活支援体制として各学科、コースにて学生の相談窓口を設け、悩みや相談を漏らすことなく対応している。また卒後教育

体制を構築していることも本校の特色のひとつである。

(評価 A)

1-3 学校の将来構想を抱いているか

スポーツ系のカリキュラム特性、目標資格、そしてそれらの融合と連携を鑑み、常に「進化」をテーマとして、短期(1ヵ年)から中期(3ヵ年)・長期(5ヵ年)ビジョンを作成し、将来像を事業計画に明文化している。

(評価 B)

2-4 運営方針は定められているか

運営方針は、毎期毎に事業計画作成時に定め、教職員に徹底させている。

(評価 B)

2-5 事業計画は定められているか

事業計画は、毎期毎に評議員会において決定し、法人理事会の決済・承認を受け、教職員に目的・方針を発表して徹底させている。

内容としては、①組織目的②運営方針③募集目標④実行目標(人材育成)⑤組織図⑥執務提要(職務分掌)⑦社会・地域貢献目標で構成されている。その他教職員各人においては、毎月「動静表」を作成させ自立的な計画と決定・運営実行をおこなわせている。

(評価 A)

2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

本校の運営組織は、組織図の執務提要に定められており、学校代表者会議、学科長会議、GM 会議を頂点に、各コース・学科、そして各担当に至るまで責任・役割が明確にされており機能している。

意思決定機能については、法人理事会の会議が定期的におこなわれ、寄付行為・諸規則等の規定に基づき検討され、それら会議の議事録は作成・活用・保存がなされている。

(評価 B)

2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

本校は、新規採用に関しては二つのシステムに基づいておこなっている。一つは定期的に(毎年10月)翌年度の補強等を考えた採用。そして、もう一つは中途退職者のための期内採用であり、両者とも学校採用基準に基づき賃金等を定めている。採用後の教職員の育成においても、各種研修会、勉強会への参加促進を図っている。そして、本校独自の「教育研究費」を毎年補助し、各教職員に啓発を薦めている。賃金の処遇においても、毎年10月に一定の基準のもと、成果に応じた賃金決定がなされている。

(評価 C)

2-8 意思決定システムは確立されているか

業務の効率化にコンピュータによる情報システム化は必要不可欠であり、その効率の向上に努めている。業務としては、①資料請求関連システム（HP・問い合わせ対応等）②学籍簿管理システム③教職員動静管理システム等がある。

セキュリティー面に関しても十分配慮しており、個人情報保護法等も考慮し、情報漏洩対策としてパソコンを教職員各人に一台貸与し、目的・情報管理規定などを周知させている。

そして、迷惑アクセスの分析対策、SSL 対策（情報を暗号化して送受信）もおこなっている。

(評価 B)

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか

専門知識・技術の習得のみならず、豊かな個性、高いモチベーション、パイオニア精神を兼ね備えた人材育成を念頭に置いている。各学科の業団とも定期的に連携、連絡をし、業団が開催している学会、研修会などにも積極的に学生を参加させている。

また、講義や演習および実習教育を通じて、自律して当該業務が実施できることを目標に指導し、校訓を遵守させ、職能団体の倫理規定に基づく職業倫理の指導を教育に取り込んでいる。

(評価 A)

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか

科目ごとにシラバスを作成し、履修の目的、修得目標などを明確に掲げている。また学生個々の評価をフィードバックし、理解度習熟度を確認しながら授業を行っている。

コースごとに、取得を目指す資格に対応した教育カリキュラムを設定している。スポーツ学科においては、学外実習を重視しており、各業界に直に関わることで、個々が明確なビジョンを持つことができ、実習先からの評価を個々にフィードバックすることで、現場への適性力を見極め、指導に生かしている。さらに医学的基礎知識、技術の習得、一般社会人としての教養知識が必要なことを理解させ、体系的で系統的なカリキュラムの組み立てをおこなっている。

(評価 A)

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか

スポーツ学科の特性を考慮し、それぞれ体系的にカリキュラムの編成がされている。

伴う内容も教育している。スポーツ学科においては1年次に基礎を学ぶと同時に実習体験をおこない、2年次にはより専門的な知識・技能を現場で発揮できるプログラムを設けることにより体系的に構成されている。

(評価 A)

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか

コースごとに目指すべき資格を明確に定め、コースに則した知識、技術を教育期間の中で到達目標を設定し、確実に到達できる水準を定めている。教育課程編成委員会を年に2回開催し、各委員からの意見や提案を毎年の履修科目の編成に反映させている。

(評価 A)

3-14 授業評価の実施・評価体制はあるか

主として担任から、単位認定試験前後に無作為に学生からの聞き取り調査や面談を実施し、その結果を各学科の教務会でフィードバックに落とし、今後の授業の改善にむけて反映している。

また、各学科長などが単位認定者(教科担任)や実習担当教員から直接状況把握のためのヒアリングや相談を受け、履修状況や進行状況、授業内容の評価と伝達を行い、全体の把握に努めている。

(評価 A)

3-15 育成目標に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか

スポーツ学科では、各分野において専門的な知識や技術を有する人材を配置している。かつ豊富な臨床および教育経験を具備した人材を採用している。また、卒業生などのチューター制度(補習指導者)を取り入れ、成績不良者の補習や個人指導にあたっている。

(評価 A)

3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

本校では、授業計画書(シラバス)を作成し、新年度ガイダンスなどで公表説明をしている。科目履修の際には、成績評価と単位認定の基準は明確に定められており、学生便覧にも明記されている。また、履修科目によれば学業成績だけでなく、授業貢献度やプレゼンテーションなどの演習成果も評価に加味している。再三の指導にもよらず、出席率の満たないものは再履修対象になるが、成績不良者による再履修者には担任及びチューターによるフォロー体制を設定している。

(評価 A)

3-17 資格取得の指導体制はあるか

コースごとに異なるが、すべての資格に対して対策授業をおこなっている。

大学編入や公務員への進路変更等に関しても、試験対策授業やセミナーを実施し、合格率アップを図っている。

直前対策のみならず、平素から多様な資格取得に向け奨励・指導をしている。学内においても、資格講座を設け受講を勧めている。

(評価 A)

3-18 生涯学習に対して積極的に取り組んでいるか

資格項目によって違いはあるが、卒業後のバックアップ体制を整備している。

生涯学習の必要性に関し、在学中にその趣旨を説明し意義を理解させ、有資格者となっても現状に留まることなく、常に自己研鑽研修の必要性を教え、専門領域のみならず、関連諸学問、余暇活動（レクリエーション、ボランティアなどの参加）への興味関心を持つように伝達している。学校においての具体的な取り組みは、在校生解剖実習に卒業生も参加させ、解剖の復習と知識向上に努め、各種技術研修会の案内などを行っている。

(評価 A)

3-19 附帯教育事業に対する取り組みの組織・体制は明確になっているか

現在、附帯教育事業はおこなっていない。

4-20 就職に関する目標を達成したか

目標は達成している。

スポーツ分野において、専門職に関しては、業界全体として正社員採用をほとんどおこなっていないという特有の状況があるものの、教員がチームおよび実業団体等の紹介をおこない、就職を果たしている。次に競技を継続しておこなうことを希望する学生には、競技を続ける環境と就職先の両方を確定させるべく指導をしており、学生が満足する進路決定がなされている。最後に一般企業への就職を希望する学生に対しては、専任のキャリアセンター職員が、求人情報を把握しており、担任を通じて就職相談・指導をおこなっている。

以上のことから学生について満足する進路決定がなされていると自負している。また、本校では、卒業生に対しての「アンケート調査」を毎年おこない、卒業後も学生の状況把握に努めている。

(評価 A)

4-21 資格取得に関する目標を達成したか

100%合格を目標とする。全体の合格率を公表している資格に関しては、毎年平均程度の結果を残している。

就学中断率の低下に向けて、入学者全員に対し、全員進級、卒業、合格を目標に、新入生フレッシュセミナーやオリエンテーション合宿などを実施し、日頃から頻繁に学生とコミュニケーションをはかり、共通する価値への集団意識の定着に向け指導をしている。途中で目的や目標を見失い、学習意欲に欠ける学生には、原因分析、解決のための個人面談を実施し、投げ出すことなく、やり通す気持ちを、熱意をもって指導している。

(評価 B)

4-22 退学率の低減に関する目標を達成したか

退学者ゼロに向けて、学生間、学生教員間のコミュニケーションの促進をはかっている。入学時から宿泊を伴うフレッシュセミナーの開催や、オリエンテーション合宿などをはじめ、さまざまな機会を通して人的及び物的環境に適応できるように面談を実施し、サポートしている。

退学の意向を示す学生に対し、個人面談を実施し、学生支援を行い、最終的には本人、担任、保証人などとの3者面談を通じて、単なる阻止の指導や助言で終了することなく、その原因や就学継続困難の理由を把握し、ともに問題解決の方法を探っている。就学支援へのカウンセリング、アドバイスやメンタルケアにも努めている。就学中断者の行動を振り返り、異常信号や行動変容を分析し、中断率の低下に向けて学生への指導や指南を行っている。

(評価 B)

4-23 卒業生・在校生は社会で活躍し、評価を得ているか

卒業生の多くは業界就職先から高い評価を受けており、多彩な方面で活躍している。また、在校生に関しては、学外実習先から提出される評価表をもとに、高い評価を受けている学生が大多数である。

(評価 A)

5-24 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか

就職及び進学（主に大学編入学）の指導については、各学科の就職担任が主担し、キャリアセンターとあわせて指導をおこなっている。

入学当初より外部講師を招いてのガイダンスや進路ガイダンス・就労体験をおこない、就職意識を高め、学生自らが考え、行動に移す事ができる機会を用意している。

(評価 A)

5-25 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか

個々のメンタルサポートに関しては担任独自での解決が困難な場合や、家庭の事情、経済的事由など個人のプライベートな内容についても学科の教務会で検討をおこない、また事

務長とも連携をとり、専門的なカウンセリングが必要な場合は、相談員資格を持つ教員やベテランの教員が対応、解決にあたっている。

進路、就職に関しては、キャリアセンターと担任間で連携し情報交換をおこない、相談窓口を常設している。キャリアセンター教員によるキャリア関連講座を導入し、また求人の新規開拓も積極的におこない、学生支援に有効活用している。その成果として様々な職種への就職が決定している。

(評価 A)

5-26 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか

履正社特別奨学金制度や特待生制度を設け学費の減免をおこなっている。

学費は前期・後期、2期の納入に分けているが、学生の経済・家庭事情に応じて学費の分納・延納の対応もおこなっている。

学費滞納による就学中断が回避できるように、可能な範囲で学生の相談に応じている。また、提携している金融機関の学資融資制度（教育ローン）の紹介などもおこなっている。各学科の教務においては、勉学に支障のない範囲で、アルバイトを紹介し、学費負担の軽減を図っている。さらに本校指定の教育連携医療機関と提携し、在学中から正社員で勤務することにより、病院から独自の奨学支援給付金を受け取ることもでき、一層の経済的負担を図ることもできる。

(評価 A)

5-27 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか

年に一度健康診断をおこない、再検査や治療の必要があるものに関しては診断結果を渡し、認識させ、学生生活を健康でよりよく過ごせるように指導している。

本校には附属の鍼灸接骨院が設置されており、学生がいつでも受診できるようにしている。

(評価 A)

5-28 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか

クラブ活動は、本校規約のもと参加学生に対して活動費援助などの支援を行っている。学科特有のサークル活動もあり、幅広く人間形成や学生の水平垂直交流の場として機能している。

年に一度、課程ごとの球技大会や全学で一斉に行う体育大会を開催し、学校が運営面で全面的に支援し、各課程の学年を超えた交流や全学学生が1日活動を共にする場を提供し、学生の友好や交流を目的に有効に機能させている。

(評価 A)

5-29 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

学生寮は所有していないが、信頼性の高い、提携業者を紹介している。

(評価 B)

5-30 保証人と適切に連携しているか

欠席の状況などをみて、担任が家庭と連絡を行い状況の把握に努めている。事情が芳しくない場合は、コース長と担任、本人、そして保証人との3者面談も実施している。

成績や出席状態を保護者に通知し、学生生活のサポート作りに努めている。本人、保証人の同意を得て、相互にメールなどにて情報を交換している。

(評価 A)

5-31 卒業生への支援体制はあるか

進路の変更、再就職希望者等に関して情報の提供、相談対応、転職先紹介をおこなっている。

(評価 A)

6-32 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか

本校専用の体育館、グラウンドを2か所（サッカーグラウンド・テニスコート・野球場・屋内練習場等）所有しており、授業以外でトレーニングができるよう教育環境を整えている。また、本校内にスイミングクラブがあり、学生には無料でプールを利用できる時間帯を設けている。館内に Wi-Fi やデジタル黒板を設置し、入学時に配布しているタブレット端末と合わせて履修しやすい環境整備を進めている。

(評価 A)

6-33 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

スポーツ系においては企業と提携をおこない、運営実習・トレーナー実習・競技実習・審判実習・ビジネス実習を実施している。

(評価 A)

6-34 防災に対する体制は整備されているか

緊急時のマニュアルを作成し、防災訓練を毎年実施し、避難経路を周知させている。

(評価 A)

7-35 学生募集活動は、適正に行われているか

学生募集については広報部と教務職員が中心となり、教職員全員が広報活動をおこなっている。ホームページや入学案内に就職実績等の情報や教育内容を正確に掲げ、出願受付・発表時期などを厳守し適正な募集活動を実施している。

学校説明会・オープンキャンパスでは各学科・コースの担当教員による模擬授業、資格取得や進路相談だけではなく奨学金や教育ローンについても説明している。

(評価 A)

7-36 就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍の教育成果は、学生募集に貢献したか

校内掲示板をはじめ、各学科の専用ブログサイトにて、実績および卒業生の活躍状況を掲示し閲覧できる。目標資格を取得し、希望の進路決定を果たした卒業生が数多くいることを入学希望者に知ってもらうことは、入学希望者に本校を理解してもらううえで最も重要なことの一つであると考えている。当然のことながら学生募集に関しての一翼を担っている。

同様に、入学関係のイベントの際についても、体験実習や学科紹介及び入試説明と並び就職を中心として進路関係を説明する時間を別途設定し、就職や大学編入学実績等の説明を実施している。

(評価 A)

7-37 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

アドミッションポリシーに基づいた入学選考を行い、厳正に合否判定をおこなっている。

選考方法はAO入試、推薦入試、一般入試、内部推薦入試、社会人入試、有資格者入試を設けており、学科により筆記試験の有無はあるが全てに面接試験を導入している。

(評価 A)

7-38 学納金は妥当なものとなっているか

毎年、無駄な支出のチェックをおこない、学納金の見直しをおこなっている。

(評価 A)

8-39 中期長期的に学校の財産基盤は安定しているといえるか

年度・学科により、定員に対する応募者数、入学者数の割合にバラツキが見られるが、全体としての学生数の増減は僅かなもので、比較的安定した推移をしている。

単年度消費収支差額も黒字で、現在、資金収支上特段問題となる事項は見当たらない。施設取得時の借入金返済が増加しているので、固定化している経費を削減し、より筋肉質な体質を目指していく。

(評価 A)

8-40 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

翌年度の事業計画書が作成されており、学校全体の予算化は図れている。将来的には、各分野に落とし込まれた詳細な予算計画を策定し、幹部教職員に周知徹底、あるいはまた、長期計画予算の策定も予算の有効性の観点から検討課題とする。

(評価 A)

8-41 財務について会計監査が適正におこなわれているか

会計監査については、私立学校法の規定に伴って幹事による監査がおこなわれており、毎年5月に実施される理事会および評議委員会に監査報告書が提出されている。また、公認会計士による監査もおこなわれ、独立監査人の監査報告書も提出されている。

(評価 A)

8-42 財務情報公開の体制整備はできているか

平成17年4月の私立学校法の改正に伴い、財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書、監査報告書の公開ができるように体制が整備されている。

(評価 A)

9-43 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

法令や設置基準の遵守、そして適正な運営をおこなっている。もとより設置基準を満たし、大阪府より認可を受けているが、每期毎に箕面計画調整局、大阪府私学課、基礎資料調査定期報告書を提出している。

教室、実習室等、学生定員、そして、専任教員数も遵守しており、専任教員においては万一の退職により欠員が生じた場合でも、即座の対応（補充）をおこない報告している。

(評価 A)

9-44 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

教職員には、上部団体（社団法人大阪専修学校各種学校連合会）等の個人情報保護法関連の研修会や勉強会へ積極的に参加させている。そして、学校内においても定期的に職員会議において個人情報保護の重要性を徹底している。

コンピュータによる情報システム上においても、個人情報漏洩対策としてパソコンを教職員各人に一台貸与し、パソコン、データの持ち帰り、持ち出しを禁止している。尚且つSSL対策（情報を暗号化して送受信）をもおこなっている。

不測の事態に備え、「個人情報漏洩保険」にも加入している。

(評価 A)

基準 10 自己点検・自己評価、第三者評価

10－45 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

平成20年10月より学校内に「自己評価委員会」を設置し、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構（以下、「機構」）の実施要領（平成20年3月配布版）の定めに基づき、自己点検・自己評価をおこない、その報告書の作成に努めている。

（評価 B）

10－46 自己点検・自己評価結果の公開はしているか

自己点検・自己評価報告書の結果は公開をしている。

（評価 A）

10－47 第三者機関による学校評価を受ける予定・方針は確立されているか

今後実施していけるよう検討している。